

事務連絡  
平成30年4月13日

公益社団法人富山県医師会 御中  
公益社団法人富山県看護協会 御中  
一般社団法人富山県歯科医師会 御中

富山県少子化対策・県民活躍課

配偶者からの暴力を受けた者に係る医療保険関係事務の取扱い等について

平素より本県のDV対策の推進に多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
さて、標記については、別添のとおり、平成20年2月27日付け保国発第0227001号（平成25年11月18日付け保国発1118第1号により一部改正）厚生労働省保健局国民健康保険課長通知及び平成20年2月5日付け保保発第0205003号（平成25年11月18日付け保保発1118第3号により一部改正）厚生労働省保健局保険課長通知により示されているところですが、去る3月17日に「DV被害者早期発見のための医療機関向け研修会」を開催したところ、医療関係者の方からご質問がありましたので、改めて情報提供いたします。  
つきましては、下記の内容について、貴会会員への周知にご配慮いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

### 1 被害者に係る被扶養者認定の取扱い（基本方針※中第2の7の（6）ウ）

被害者は、婦人相談所等が発行する証明書（子ども等の家族を同伴している場合には、その同伴者に係る証明書を含む。）を持って保険者へ申し出ることにより、被扶養者又は組員の世帯に属する者から外れること。

→DV被害者から、「配偶者の被扶養者から外れたい」旨の相談があった場合には、「配偶者からの暴力を理由として保護した旨の証明書（暴力があった事実を証明するものではない）」が必要となるため、富山県女性相談センター等の配偶者暴力相談支援センターや警察に相談するようご案内ください。

### 2 第三者行為による傷病についても、保険診療による受診が可能であること

（基本方針※中第2の7の（6）キ）

→被保険者証を提示すれば、他の受診者と同様に保険診療による受診が可能とされています。

### 3 被害者等に係る医療費通知の取扱い（基本方針※中第2の7の（6）ク）

医療費通知の送付により、被害者が受診した医療機関について、加害者に伝わるおそれがある場合には、被害者が加入している医療保険の保険者に対し、医療費通知の送付先の変更等を依頼すること。

→DV被害者から医療費通知の送付先変更等の相談があった場合には、加入している保険者へ連絡するよう、お伝えください。（対応は保険者により異なります。）

※配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等のための施策に関する基本的な方針（平成25年12月26日（平成26年10月1日一部改正）内閣府、国家公安委員会、法務省、厚生労働省告示第1号）

以上について不明な点等がございましたら、富山県女性相談センター（TEL:076-465-6722）までお問い合わせください。

【事務担当】  
女性活躍・働き方改革推進班 大井  
TEL 076-444-3137/FAX 076-444-3479  
MAIL rikako.oi@pref.toyama.lg.jp

30.4.16

富山県医師会

( 別添省略 )

保 国 発 第 0227001 号  
平成 20 年 2 月 27 日  
〔一部改正〕保 国 発 11.18 第 1 号  
平成 25 年 1 月 18 日

都道府県民生主管部（局）長 殿

厚生労働省保険局国民健康保険課長

配偶者からの暴力を受けた者の取扱い等について

配偶者からの暴力を受けた者（以下「被害者」という。）の保護のための施策を更に推進することを目的とした「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の一部を改正する法律」（平成19年法律第113号）が、平成19年7月11日に公布され、平成20年1月11日に施行されたところである。

この法律による改正後の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（平成13年法律第31号。以下「法」という。）第2条の2の規定に基づき、同日付で告示された「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策に関する基本的な方針」（平成20年内閣府、国家公安委員会、法務省、厚生労働省告示第1号。以下「基本方針」という。）において、被害者の自立の支援に係る医療保険に関する事項の見直しが行われたところである（別添1参照）。

今般、この医療保険に関する事項として定められた、被害者に係る組合員の世帯に属する者の認定の取扱い、第三者行為による傷病についての保険診療による受診の取扱い及び被害者等に係る医療費通知の取扱いについて、下記のとおりとしたので遺漏のないようお取り計らい願いたい。

これに伴い、「配偶者からの暴力を受けた者に係る被保険者資格の取扱いについて」（平成16年12月6日保国発第1206001号）は廃止する。

なお、下記の取扱いに関しては、当省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課長から都道府県民生主管部（局）長を通じ、婦人相談所等に対し、当局保険課長から年金事務所運営部医療保険課、各健康保険組合及び各地方厚生（支）局に対し、並びに内閣府男女共同参画局を通じ、配偶者暴力相談支援センターとしての機能を果たす都道府県等の女性センター等に対し協力を依頼していることを申し添える。

記

- 1 被害者に係る組合員の世帯に属する者の認定の取扱いについて  
基本方針中第2の7の（6）ウにおいては、「保険者に申し出ることにより、被扶

養者又は組合員の世帯に属する者から外れること」と定められている。

組合員の世帯に属する被保険者（以下「世帯員」という。）が、当該世帯から外れる手続きは、組合員からの届出に基づいて行われているところであるが、組合員自身から世帯員を世帯から外す旨の届出がなされなくとも、配偶者である組合員からの暴力を受けた世帯員から、婦人相談所が発行する配偶者からの暴力を理由として保護した旨の証明書（以下「証明書」という。別添2参照）を添付して、国民健康保険組合の被保険者資格を喪失させる旨の申出がなされた場合には、被保険者資格を喪失させることができること。また、証明書において、当該世帯員の同伴者についても同様の証明がなされている場合においては、当該同伴者についても同様の取扱いができること。

なお、この証明書は、配偶者からの暴力を理由として保護したことを証明するものであって、配偶者からの暴力があった事実を証明するものではないことに留意されたい。

また、裁判所が発行する法第10条に基づく保護命令に係る書類や、配偶者暴力相談支援センター等の公的機関が発行する配偶者からの暴力を理由として保護した旨の証書についても、証明書と同様の取扱いとする。

上記の被保険者資格喪失の手続きは、次のとおりである。

(1) 保険者は、世帯員から上記の申出がなされた場合には、配偶者である組合員に対して、一定の期間を設けた上で、当該世帯員の被保険者資格を喪失させる届出を行うよう指導すること。なお、事業主等を介して届出等を行っている場合においても、当該組合員の個人情報保護の観点から、事業主等を介さず直接当該組合員に対して手続きを行うこと。

一定の期間内に当該届出がなされない場合には、当該世帯員の被保険者資格を喪失させた上で、その旨を当該組合員に対し通知すること（別添3参照）。

(2) (1) の手続により、組合員の世帯から外れた世帯員（以下「元世帯員」という。）が国民健康保険に加入するためには、手続上、国民健康保険組合の被保険者資格を喪失したことの証明が必要となることから、保険者は、世帯員の被保険者資格喪失手続きを行った旨を元世帯員に対し文書を以て通知すること。

(3) 上記取扱いに当たっては、元世帯員の居所等が配偶者である組合員に伝わることのないようにする等、十分配慮すること。

また、当該組合員から元世帯員に係る組合員の世帯に属する者としての届出が再び提出された場合には、元世帯員本人の意向を確認する等、組合員の世帯に属するか否かについて慎重に判断すること。

## 2 第三者行為による傷病についての保険診療による受診の取扱いについて

基本方針中第2の7の(6)キにおいては、「第三者行為による傷病についても、保険診療による受診が可能であること」と定められている。

保険者は、給付事由が第三者の行為によって生じた場合において、保険給付を受けべき者が第三者から同一の事由について損害賠償を受けたときは、その価額の限度において、保険給付を行う責を免かれる（国民健康保険法（昭和33年法律第192号）第64条第2項）ものであることから、被害者は、第三者から損害賠償を受けるまでは、保険医療機関において被保険者証を提示すれば、一般の被保険者と同様、保険診療による受診が可能であり、この点について誤解のないよう周知を図ること。

### 3 被害者等に係る医療費通知の取扱いについて

基本方針中第2の7の（6）クにおいては、「医療費通知の送付により、被害者が受診した医療機関について、加害者に伝わるおそれがある場合には、被害者が加入している医療保険の保険者に対し、医療費通知の送付先の変更等を依頼すること」とされ、第2の10の（1）イにおいては、職務関係者の「被害者等に係る情報の保護」が定められている。

保険者は、被害者及びその同伴者（以下「被害者等」という。）の受診に係る医療費通知の取扱いについて、受診した医療機関から被害者等の居所が加害者である配偶者に知られることのないよう、被害者からの申出があれば、当該被保険者宛の医療費通知には当該被害者等に係る情報を記載せず、被害者等に係る医療費通知は被害者から申出のあった送付先に送付するなど、適切に対応すること。

保保発 1 1 1 8 第 3 号  
平成 2 5 年 1 1 月 1 8 日

健康保険組合理事長 殿

厚生労働省保険局保険課長  
(公 印 省 略)

「配偶者からの暴力を受けた被扶養者の取扱い等について」の  
一部改正について

配偶者からの暴力を受けた被扶養者の取扱い等については、平成 2 0 年 2 月 5 日付け保保発第 0 2 0 5 0 0 3 号厚生労働省保険局保険課長通知「配偶者からの暴力を受けた被扶養者の取扱い等について」でお示ししてきたところであるが、今般、婦人相談所等が発行する証明書等の趣旨の明確化を図るため、下記のとおり通知の一部を改正することとしたので、御了知願いたい。

#### 記

1 中「期待できないため」を「期待できない。このため」に、「の被害を受けている旨」を「を理由として保護した旨」に改め、「当該同伴者についても被扶養者から外れることができること。」の次に「なお、この証明書は、被保険者からの暴力を理由として保護したことを証明するものであって、被保険者からの暴力があった事実を証明するものではないことに留意されたい。」を加える。

別添 2 中「、配偶者からの暴力を理由として保護した者に対して婦人相談所等が発行するものであり、社会保険事務所等」を「婦人相談所等が発行するものであり、被保険者からの暴力を理由として保護したことを証明するものであって、被保険者からの暴力があった事実を証明するものではない。なお、年金事務所等」に、「社会保険事務所等に確認」を「年金事務所等に確認」に改める。

平成 20 年 2 月 5 日付け保保発第 0205003 号「配偶者からの暴力を受けた被扶養者の取扱い等について」 新旧対照表  
(傍線の部分は変更箇所)

改 正 後	現 行
<p style="text-align: right;">保保発 1118 第 3 号 平成 25 年 11 月 18 日</p> <p style="text-align: center;">配偶者からの暴力を受けた被扶養者の取扱い等について</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 被害者に係る被扶養者認定の取扱いについて 基本方針中第 2 の 7 の (6) ウにおいては、「被害者は、被害を受けている旨の証明書を持って保険者に申し出ることにより、被扶養者又は組合員の世帯に属する者から外れること」と定められている。 健康保険の被扶養者から外れる手続については、被保険者からの届出に基づいて行われているところであるが、配偶者である被保険者からの暴力を受けた被扶養者が被扶養者から外れるに当たっては、当該届出は<u>期待できない</u>。このため、当該被保険者から届出がなされなくとも、被害者から、婦人相談所が発行する配偶者からの暴力を理由として保護した旨の証明書（以下「証明書」という。別添 2 参考）を添付して被扶養者から外れる旨の申出がなされた場合には、被扶養者から外れることができること。また、証明書において、当該被害者の同伴者についても同様の証明がなされている場合においては、当該同伴者についても被扶養者から外れることができること。</p>	<p style="text-align: right;">保保発第 0205003 号 平成 20 年 2 月 5 日</p> <p style="text-align: center;">配偶者からの暴力を受けた被扶養者の取扱い等について</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 被害者に係る被扶養者認定の取扱いについて 基本方針中第 2 の 7 の (6) ウにおいては、「被害者は、被害を受けている旨の証明書を持って保険者に申し出ることにより、被扶養者又は組合員の世帯に属する者から外れること」と定められている。 健康保険の被扶養者から外れる手続については、被保険者からの届出に基づいて行われているところであるが、配偶者である被保険者からの暴力を受けた被扶養者が被扶養者から外れるに当たっては、当該届出は<u>期待できないため</u>、当該被保険者から届出がなされなくとも、被害者から、婦人相談所が発行する配偶者からの暴力の被害を受けている旨の証明書（以下「証明書」という。別添 2 参考）を添付して被扶養者から外れる旨の申出がなされた場合には、被扶養者から外れることができること。また、証明書において、当該被害者の同伴者についても同様の証明がなされている場合においては、当該同伴者についても被扶養者から外れることができること。</p>

なお、この証明書は、被保険者からの暴力を理由として保護したことを証明するものであって、被保険者からの暴力があった事実を証明するものではないことに留意されたい。

また、裁判所が発行する法第10条に基づく保護命令に係る書類や、配偶者暴力相談支援センター等の公的機関が発行する配偶者からの暴力を理由として保護した旨の証書についても、証明書と同様の取扱いとする。

上記の被扶養者から外れる手続は、次のとおりである。

- (1) 保険者は、被害者から上記の申出がなされた場合には、配偶者である被保険者の個人情報保護の観点から、当該被保険者に対して、一定の期間を設けた上で、当該被害者を被扶養者から外す届出を事業主を経由して行うよう、直接指導すること。

一定の期間内に当該届出がなされない場合には、当該被害者を被扶養者から外した上で、その旨事業主及び当該被保険者に対し通知すること（別添3及び4参考）。

- (2) 被害者が被扶養者から外れた後に国民健康保険等に参加するためには、被扶養者から外れたことの証明が必要となることから、保険者は、被扶養者から外した旨を被害者に対し文書を以て通知すること。

- (3) 上記の取扱いに当たっては、被害者の居所などが配偶者である被保険者などに伝わることをないようにするなど、被扶養者又は被扶養者であった者が被害者であることに十分配慮すること。

なお、当該被保険者から被害者に係る被扶養者届が再び提出された場合には、被害者本人の意向を確認するなど、被扶養者認定について

また、裁判所が発行する法第10条に基づく保護命令に係る書類や、配偶者暴力相談支援センター等の公的機関が発行する配偶者からの暴力の被害を受けている旨の証書についても、証明書と同様の取扱いとする。

上記の被扶養者から外れる手続は、次のとおりである。

- (1) 保険者は、被害者から上記の申出がなされた場合には、配偶者である被保険者の個人情報保護の観点から、当該被保険者に対して、一定の期間を設けた上で、当該被害者を被扶養者から外す届出を事業主を経由して行うよう、直接指導すること。

一定の期間内に当該届出がなされない場合には、当該被害者を被扶養者から外した上で、その旨事業主及び当該被保険者に対し通知すること（別添3及び4参考）。

- (2) 被害者が被扶養者から外れた後に国民健康保険等に参加するためには、被扶養者から外れたことの証明が必要となることから、保険者は、被扶養者から外した旨を被害者に対し文書を以て通知すること。

- (3) 上記の取扱いに当たっては、被害者の居所などが配偶者である被保険者などに伝わることをないようにするなど、被扶養者又は被扶養者であった者が被害者であることに十分配慮すること。

なお、当該被保険者から被害者に係る被扶養者届が再び提出された場合には、被害者本人の意向を確認するなど、被扶養者認定について

慎重に判断すること。

2・3・4 (略)

(略) (別添1)  
(略) (別添2)  
(略) (表面)  
(略) (裏面)

※1 配偶者からの暴力を理由として保護した者の氏名を記入すること。

「保護した者」には、「婦人相談所もしくは婦人相談所以外の配偶者暴力相談支援センターにおいて、または、婦人相談員が来所相談を受けた者」も含む。

※2 配偶者からの暴力を理由として保護した者に子どもなどの同伴者がいる場合には、その者の氏名を記入すること。(同伴者が4人以上いる場合、別紙としてこの様式を使用すること。)

※3 保険者において事務が終了した場合等の連絡先(関係機関や代理人の名称、電話番号も可)を記入すること。

なお、被害者が被扶養者から外れた旨の通知の郵送を希望する場合は、宛先(関係機関や代理人の住所も可)を記入すること。

※4 婦人相談所以外の配偶者暴力相談支援センターが相談を受け付けた場合のみ記入すること。なお、同支援センターが証明書を発行する場合は空欄で可。

※5 代表者氏名については、記載することが適当でない場合は、省略すること。

慎重に判断すること。

2・3・4 (略)

(略) (別添1)  
(略) (別添2)  
(略) (表面)  
(略) (裏面)

※1 配偶者からの暴力を理由として保護した者の氏名を記入すること。

「保護した者」には、「婦人相談所もしくは婦人相談所以外の配偶者暴力相談支援センターにおいて、または、婦人相談員が来所相談を受けた者」も含む。

※2 配偶者からの暴力を理由として保護した者に子どもなどの同伴者がいる場合には、その者の氏名を記入すること。(同伴者が4人以上いる場合、別紙としてこの様式を使用すること。)

※3 保険者において事務が終了した場合等の連絡先(関係機関や代理人の名称、電話番号も可)を記入すること。

なお、被害者が被扶養者から外れた旨の通知の郵送を希望する場合は、宛先(関係機関や代理人の住所も可)を記入すること。

※4 婦人相談所以外の配偶者暴力相談支援センターが相談を受け付けた場合のみ記入すること。なお、同支援センターが証明書を発行する場合は空欄で可。

※5 代表者氏名については、記載することが適当でない場合は、省略すること。



- ※6 配偶者暴力相談支援センターに指定されていない機関において、  
婦人相談員が相談を受け付けた場合のみ記入すること。
- ※7 配偶者暴力相談支援センターが証明書を発行する場合は、配偶者  
暴力相談支援センターの名称等を記入すること。
- ※8 不明である場合には空欄にすること。

(その他)

- 1 証明書の太枠内は原則被害者の保護を行った機関等が記入し、健康保険の加入状況は被害者本人が記入すること。
- 2 この証明書は婦人相談所等が発行するものであり、被保険者からの暴力を理由として保護したことを証明するものであって、被保険者からの暴力があった事実を証明するものではない。なお、年金事務所等に被扶養者認定を外す等の申請を行う際にこの証明書を添付することとなる。
- 3 2の申請の際は、被害者本人が、この証明書を含む必要書類やその提出方法等について、事前に年金事務所等に確認すること。
- 4 保険者においては、証明書に記載されている相談機関等や証明書を発行した婦人相談所の名称等の取扱いについては十分配慮されたい。

(別添3)

(略)

(別添4)

(略)

- ※6 配偶者暴力相談支援センターに指定されていない機関において、  
婦人相談員が相談を受け付けた場合のみ記入すること。
- ※7 配偶者暴力相談支援センターが証明書を発行する場合は、配偶者  
暴力相談支援センターの名称等を記入すること。
- ※8 不明である場合には空欄にすること。

(その他)

- 1 証明書の太枠内は原則被害者の保護を行った機関等が記入し、健康保険の加入状況は被害者本人が記入すること。
- 2 この証明書は、配偶者からの暴力を理由として保護した者に対して婦人相談所等が発行するものであり、社会保険事務所等に被扶養者認定を外す等の申請を行う際にこの証明書を添付することとなる。
- 3 2の申請の際は、被害者本人が、この証明書を含む必要書類やその提出方法等について、事前に社会保険事務所等に確認すること。
- 4 保険者においては、証明書に記載されている相談機関等や証明書を発行した婦人相談所の名称等の取扱いについては十分配慮されたい。

(別添3)

(略)

(別添4)

(略)

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等のための施策に関する基本的な方針（一部抜粋）

平成25年12月26日

内閣府、国家公安委員会、

法務省、厚生労働省告示第1号

※平成26年10月1日 一部改正

第2 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策の内容に関する事項

7 被害者の自立の支援

(6) 医療保険

支援センターは、被害者から医療保険に関する相談があった場合、以下について、事案に応じた情報提供等を行うことが必要である。また、国においては、以下の事項について、市町村等関係機関に対して周知に努める。

ア 健康保険においては、被扶養者は被保険者と生計維持関係にあることが必要であり、生計維持関係がなければ被扶養者から外れること。

イ 国民健康保険組合の行う国民健康保険においては、組合員の世帯に属していなければ、その対象から外れること。

ウ 被害者は、婦人相談所等が発行する証明書（子ども等の家族を同伴している場合には、その同伴者に係る証明書を含む。）を持って保険者へ申し出ることにより、被扶養者又は組合員の世帯に属する者から外れること。

エ 被扶養者又は組合員の世帯に属する者から外れた場合には、年金の第3号被保険者については、第1号被保険者となる手続が必要になること。

オ 市町村の行う国民健康保険においては、事実上の住所及び他の公的医療保険に加入していないことの確認により、配偶者とは別の世帯として、国民健康保険に加入することが可能であり、市町村において相談すること。

カ 後期高齢者医療広域連合の行う後期高齢者医療においては、事実上の住所の確認により、配偶者とは別の世帯として、後期高齢者医療の被保険者となることが可能であり、市町村の後期高齢者医療担当窓口において相談すること。

キ 第三者行為による傷病についても、保険診療による受診が可能であること。

ク 医療費通知の送付により、被害者が受診した医療機関について、加害者に伝わるおそれがある場合には、被害者が加入している医療保険の保険者に対し、医療費通知の送付先の変更等を依頼すること。